有機溶剤・スラリー液・粘性液はもちろんのこと、酸・アルカリなどの薬液にも広範囲に対応

- 防爆・防火性が高く安全です。
- 過負荷による焼損がありません。
- 吐出量を容易に調整できます。
- 自吸式のため呼び水が不要です。
- 配管接続方向を変更できます。

仕様

シリーズ	本体材質	最大吐出量	ポンプ口径 吸入口	ポンプ口径 吐出口	空気供給口接続口径	材料内固形物範囲	質量
TD-08	アルミニウム合金	13ℓ/min	Rc1/4	Rc1/4	Rc1/4	φ1mm以下	1.8kg
	ステンレス						3.8kg
TD-15	アルミニウム合金	35ℓ/min	Rc1/2	Rc1/2	Rc1/4	φ2mm以下	4.1kg
	ステンレス						7.1kg
TD-20	アルミニウム合金	54ℓ/min	Rc3/4	Rc3/4	Rc1/4	φ2mm以下	5.5kg
	ステンレス						11.5kg
TD-25	アルミニウム合金	128ℓ/min	G1	G1	Rc1/4	φ3mm以下	8.4kg
	ステンレス						15.3kg
TD-40	アルミニウム合金	341ℓ/min	G1 1/2	G1 1/2	Rc1/2	φ6mm以下	19.9kg
	ステンレス						33.1kg
	鋳鉄						34.5kg
TD-50	アルミニウム合金	511ℓ/min	G2	G2	Rc1/2	φ6mm以下	20.8kg
	ステンレス						35.8kg
	鋳鉄						37.2kg

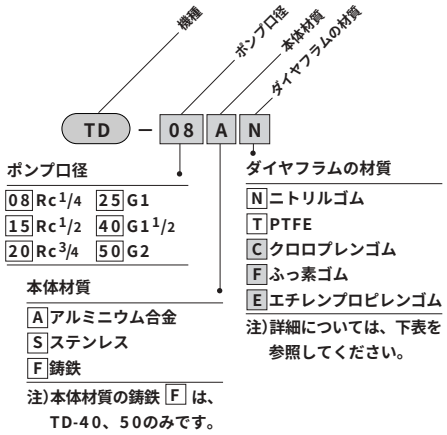
注）●最大吐出量は使用空気圧力0.7MPa、揚程0の時の清水の場合のデータです。
●ダイヤフラムはゴム系の場合です。

共通仕様

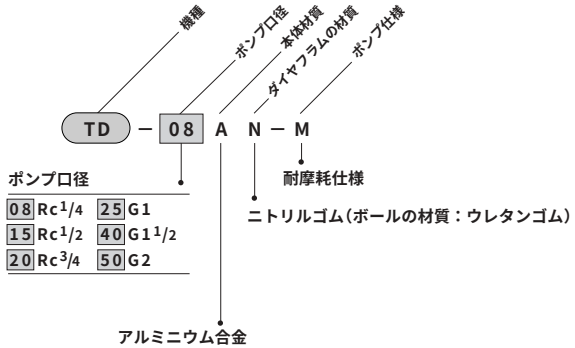
- 使用空気圧力は0.2～0.7MPaです。
- 最高使用粘度は3000×10^{-3}Pa・sです。
- 吸込揚程の最大は6mです（清水の場合）。
- 使用温度範囲（使用流体温度・周囲温度）
  0～＋60℃（但し凍結なきこと）
- 給油：要[JIS K2213-1種（無添加タービン油ISO VG32）相当品]
  （ダイヤフラム材質で、クロロプレンゴムまたはエチレンプロピレンゴムを使用する場合は、当社へお問い合せください。）

標準形

■準標準



耐摩耗仕様

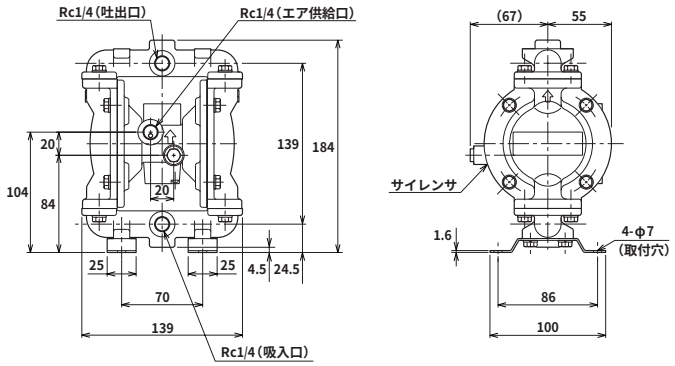


ダイヤフラムの材質一覧

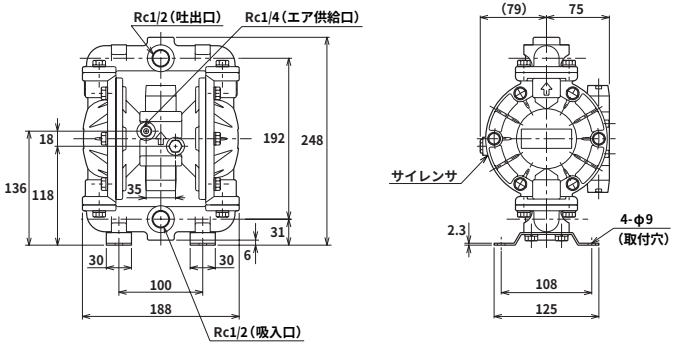
機種	ポンプ口径	ポンプ本体材質	ダイヤフラム材質 ニトリルゴム	PTFE	クロロプレンゴム	ふっ素ゴム	エチレンプロピレンゴム
TD-08	Rc1/8	アルミニウム合金	◎	◎	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
TD-15	Rc1/2	アルミニウム合金	◎	◎	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
TD-20	Rc3/4	アルミニウム合金	◎	◎	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
TD-25	G1	アルミニウム合金	◎	◎	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
TD-40	G1 1/2	アルミニウム合金	◎	○	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
		鋳鉄	◎	○	○	○	○
TD-50	G2	アルミニウム合金	◎	○	○	○	○
		ステンレス	○	◎	○	○	○
		鋳鉄	◎	○	○	○	○
ボールの材質		TD-08～40	ニトリルゴム	PTFE	クロロプレンゴム	ふっ素ゴム	エチレンプロピレンゴム

注）◎印は標準品、○印は準標準品になります。

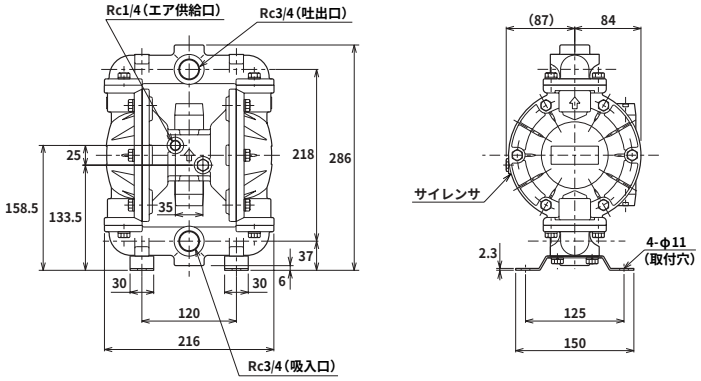
TD-08（金属タイプ）



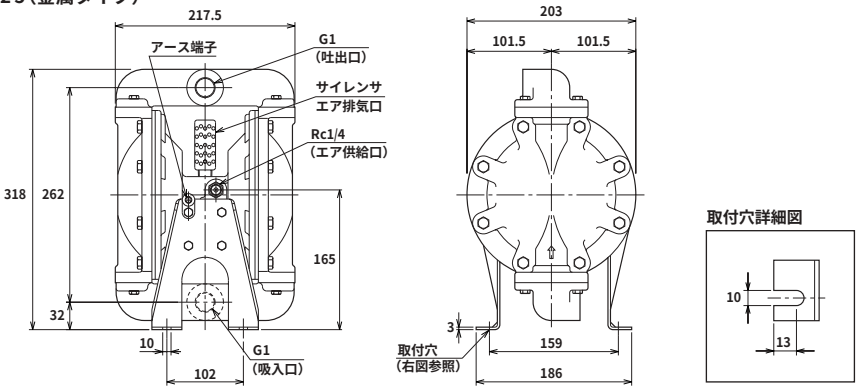
TD-15（金属タイプ）



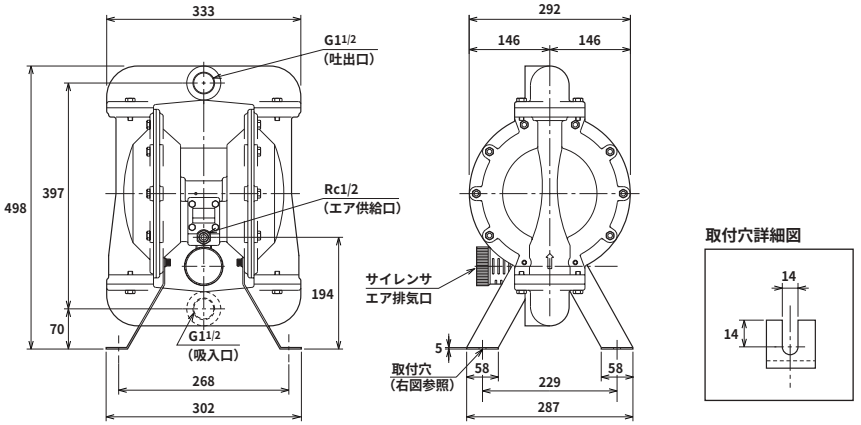
TD-20（金属タイプ）



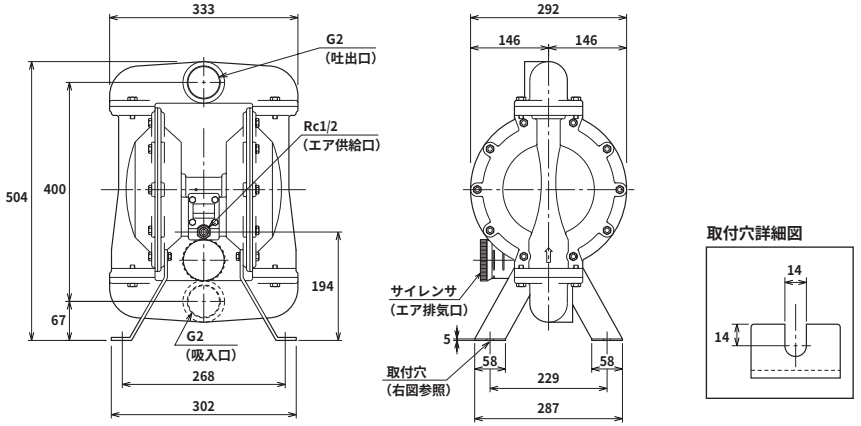
TD-25（金属タイプ）



TD-40（金属タイプ）



TD-50（金属タイプ）



空気圧駆動式ダイヤフラムポンプ

粘性流体や酸・アルカリなどの化学薬品の圧送に最適な樹脂タイプのダイヤフラムポンプ

- 金属性ポンプより酸・アルカリなどの薬品への耐食性が優れています。
- 吐出口・吸込口の方向を自由に変更できます。
- 防爆・防火性が高く安全です。
- 過負荷による焼損がありません。
- 吐出量を容易に調整できます。
- 自吸式のため呼び水が不要です。
- 繊維状の異物でも圧送が可能です。
（但しダックビルタイプ/準標準を使用してください。）

仕様

◎：標準

チェック方式	形式	材質 本体(接液部)	材質 ダイヤフラム部	材質 チェック部	最大吐出量 ℓ/min	流体固形物範囲	ポンプ口径 (吸入口・吐出口)	空気接続口径 供給口	空気接続口径 排気口	質量 kg
ボールチェックタイプ	◎TD-15PT	ポリプロピレン	PTFE	PTFE	42	φ1.6mm以下	NPT1/2	NPT1/4	サイレンサ内蔵	3.4
	TD-15PC		クロロプレンゴム	クロロプレンゴム	49					
	TD-15PU		ウレタンゴム	ウレタンゴム						
	◎TD-15KT	ポリふっ化ビニリデン	PTFE	PTFE	42					4.7
	TD-15KC		クロロプレンゴム	クロロプレンゴム	49					
	TD-15KU		ウレタンゴム	ウレタンゴム						
ダックビルタイプ	TD-15PC-D	ポリプロピレン	クロロプレンゴム	ニトリルゴム	49	—				3.4
ボールチェックタイプ	◎TD-25PT	ポリプロピレン	PTFE	PTFE	166	φ3.0mm以下	1 ”フランジ	NPT1/4	NPT3/8 (サイレンサ付)	9.2
	TD-25PC		クロロプレンゴム	クロロプレンゴム						
	TD-25PF		ふっ素ゴム	ふっ素ゴム						
	◎TD-25KT	ポリふっ化ビニリデン	PTFE	PTFE						12.9
	TD-25KC		クロロプレンゴム	クロロプレンゴム						
	TD-25KF		ふっ素ゴム	ふっ素ゴム						

- ◎印は標準タイプです。

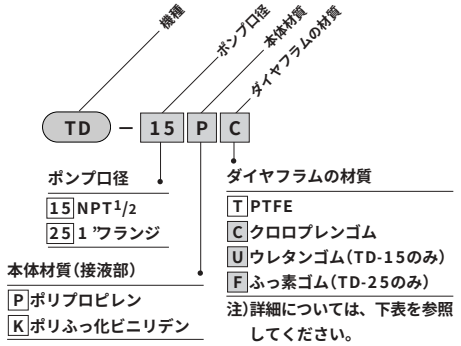
注）最大吐出量は、使用空気圧力0.7MPa・揚程0の時の清水のデータです。

共通仕様

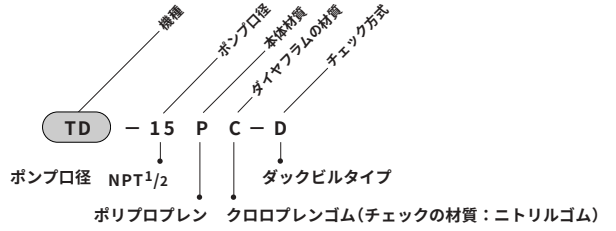
- 使用空気圧力：0.2～0.7MPa
- 最高使用粘度：3000×10^{-3}Pa・s
- 吸込揚程：6m(但し、清水の場合)。
- 使用温度範囲：0～＋60℃(但し凍結なきこと)

標準形

■準標準



ダックビルタイプ(準標準品)



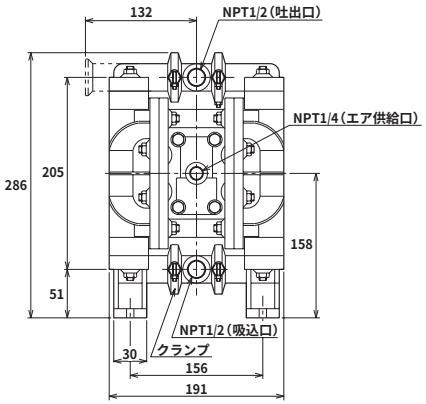
ダイヤフラムの材質一覧

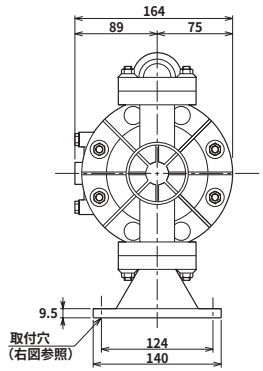
機種	ポンプ口径	ポンプ本体材質	ダイヤフラム材質 PTFE	ダイヤフラム材質 クロロプレンゴム	ダイヤフラム材質 ウレタンゴム	ダイヤフラム材質 ふっ素ゴム
TD-15	NPT1/2	ポリプロピレン	◎	○	○	—
		ポリふっ化ビニリデン	◎	○	○	—
TD-25	1 ”フランジ (ANSI規格)	ポリプロピレン	◎	○	—	○
		ポリふっ化ビニリデン	◎	○	—	○
ボールの材質			PTFE	クロロプレンゴム	ウレタンゴム	ふっ素ゴム

注）◎印は標準品、○印は準標準品になります。

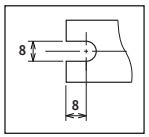
空気圧駆動式ダイヤフラムポンプ

TD-15（樹脂タイプ）





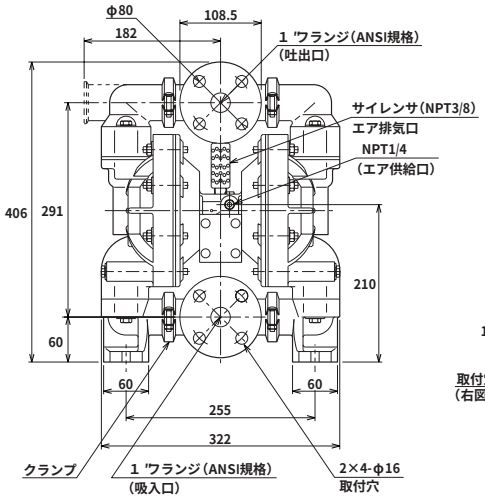
取付穴詳細図

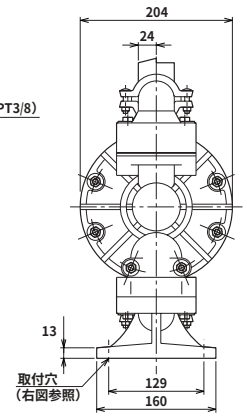


＊サイレンサは、本体に内蔵しています。

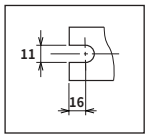
●クランプを緩めることにより、吐出口・吸入口の方向を変えることができます。

TD-25（樹脂タイプ）





取付穴詳細図



●クランプを緩めることにより、吐出口・吸入口の方向を変えることができます。

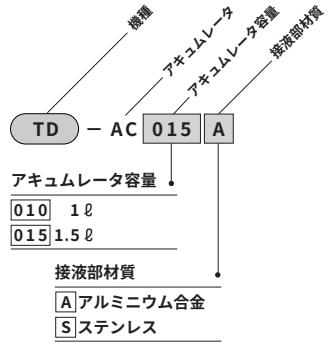
ダイヤフラムポンプ特有の吐出脈動を吸収し、よりスムースに吐出することができます。

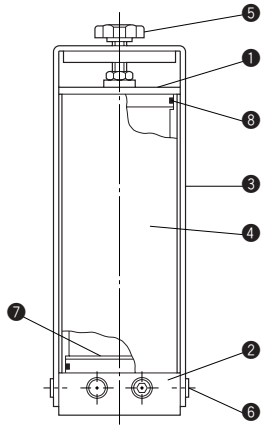
●工具なしで簡単に分解、組立ができます。（洗浄行程の大幅な工数削減）
●部品点数が少なく、取扱い及びメンテナンスが簡単です。
●アキュムレータ内の流体が目視できる透明なアクリルチューブもオプションにより製作可能です。（使用圧力0.2～0.5MPa）

仕様

形式		TD-AC010※	TD-AC015※
ダイヤフラムポンプ適合機種		TD-08・TD-15	TD-20
空気封入圧力		大気圧	
使用圧力範囲		0.2～0.7MPa	
耐圧力		0.8MPa	
本体材質		アルミニウム合金・ステンレス	
接続口径		側面2カ所：Rc3/8　底面1カ所：Rc1/2	
周囲温度		0～60℃	
取付方向		鉛直方向	
アキュムレータ容量		1・1.5ℓ	
質量 kg	アルミニウム合金	1ℓ：2.2	1.5ℓ：2.8
	ステンレス	1ℓ：4.9	1.5ℓ：6.3

注）TD-15の使用で高吐出圧力が必要な場合は（揚程が高い場合など）アキュムレータ容量1.5ℓのタイプを推奨します。





部品表

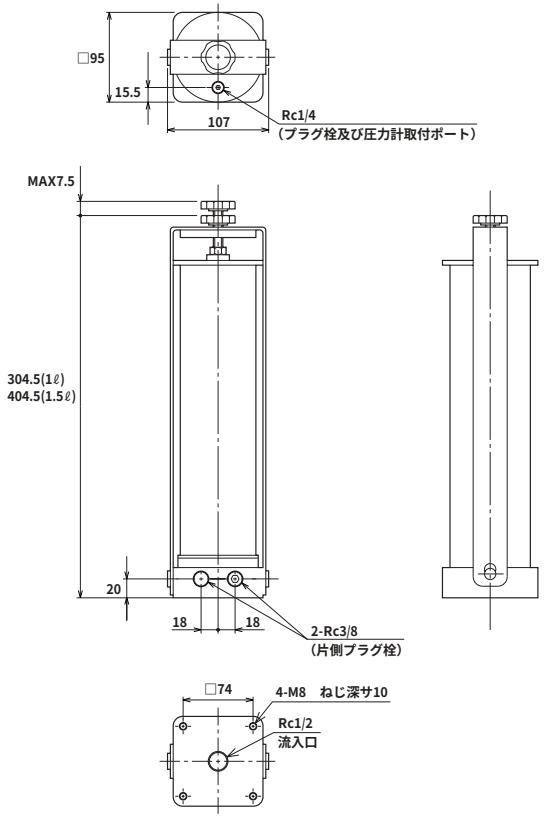
No.	名称	材質	数量
❶	カバーA	アルミニウム合金 / ステンレス	1
❷	カバーB	アルミニウム合金 / ステンレス	1
❸	固定金具	ステンレス	1
❹	チューブ	アルミニウム合金 / ステンレス	1

No.	名称	材質	数量
❺	ノブ	樹脂	1
❻	ストッパボルト	ステンレス	2
❼	バッフルプレート	ステンレス	1
❽	Oリング	ふっ素ゴム	2

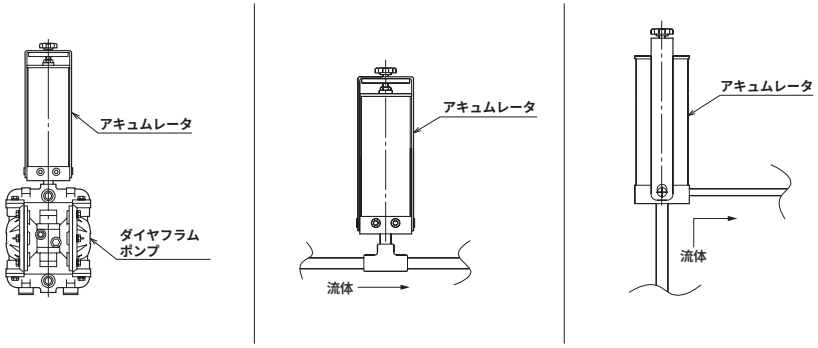
空気圧駆動式ダイヤフラムポンプ

単位：mm

TD-AC	**アキュムレータ容量**	**接液部材質**
010：1ℓ	A：アルミニウム合金
015：1.5ℓ	S：ステンレス



取付例



取扱上の注意事項

- アキュムレータは、必ず鉛直方向に取り付けてください。
- ダイヤフラムポンプからアキュムレータへの接続配管はできるだけ短く、内径の大きなものを使用してください。（配管による圧力損失をできるだけ少なくしてください。）
- 配管後、各接続部の漏れがないことを確認してください。
- 使用しないポートには、必ずプラグ栓をしてください。
- 使用条件によって異なりますが、長時間にわたって使用する場合は、定期的にアキュムレータ内に空気の補充をしてください。
  （アキュムレータ内の空気が少なくなると脈動吸収がうまく機能しなくなる場合があります。）
- 吐出圧力が小さい場合（揚程が低い場合など）アキュムレータ内へ圧送流体が入らず脈動吸収がうまく機能しなくなる場合があります。この様な場合吐出側配管（アキュムレータの後）に絞り弁を付けて、調整を行ってください。

空気の充てん方法

1）配管内圧力を大気圧にしてください。
2）配管内やアキュムレータ内の流体を排出してください。
3）ゲージ用プラグを緩め、アキュムレータ内の圧力を大気圧にしてください。
4）ゲージ用プラグを再びセットし、ダイヤフラムポンプを作動させ、空気の漏れがないことを確認してください。